

いのちあふれる美しい地球を次代へ
第28回環境活動助成先を決定しました
102団体に総額9,088万円を助成

公益財団法人イオン環境財団（理事長 岡田卓也 イオン株式会社名誉会長相談役）は、2018年6月から8月にかけて行った第28回環境活動助成先の公募の結果、102団体に総額9,088万円の助成を行うことを決定しました。

当財団は1990年の設立より28年間、「生物多様性の保全と持続可能な利用」のため、世界各地で積極的に環境保全活動を継続している団体への助成を続けています。今回の助成を含め、助成先数は累計2,948団体、助成総額は約27億円となります。

「植樹」「里地・里山・里海の保全・河川の浄化」「環境教育」「野生生物・絶滅危惧生物の保護」の4つの分野に対し、本年は国内外で活動する150の団体から応募があり、その中から、厳正な審査のもと102団体を選出しました。

応募の傾向としては、「里地・里山・里海の保全・河川の浄化」に関する応募が増加しており助成先としても同分野が102団体中46団体と最も多くなりました。

当財団は、いのちあふれる美しい地球を次世代へ引き継ぐため、これからも植樹活動や助成事業を通じた環境保全活動に積極的に取り組んでまいります。

記

【第28回環境活動助成 概要】

テ ー マ： 生物多様性保全と持続可能な利用のために

助成金額： 9,088万円

助成期間： 2019年4月1日～2020年3月31日

助成先： 102団体

活動分野	団体名（活動地域）
植樹	<ul style="list-style-type: none"> ・公益社団法人 秋田県林業育成協会（中国） ・特定非営利活動法人 緑化ネットワーク（中国） ・一般社団法人 地球緑化クラブ（中国） ・F. C. Manis. マニスファンクラブ（インドネシア） ・特定非営利活動法人 炭の木植え隊（ラオス） ・特定非営利活動法人 緑の大地の会（マレーシア） ・特定非営利活動法人 エコアライアンス21（モンゴル） ・特定非営利活動法人 モンゴル環境情報センター（モンゴル） ・特定非営利活動法人 イカオ・アコ（フィリピン） ・特定非営利活動法人 NEKKO（フィリピン）

<p>植樹</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特定非営利活動法人 アジア母子福祉協会（マダガスカル） ・ ボランティア サザンクロス ジャパン協会（マダガスカル） ・ 特定非営利活動法人 緑のサヘル（ブルキナファソ） ・ 一般社団法人 9千年続く平成のいのちの森プロジェクト（北海道） ・ 特定非営利活動法人 白神山地を守る会（青森県） ・ 特定非営利活動法人 森びとプロジェクト委員会（岩手県、宮城県、福島県） ・ 特定非営利活動法人 こころの森（宮城県） ・ 特定非営利活動法人 白神ネイチャー協会（秋田県） ・ 公益財団法人 鎮守の森のプロジェクト（福島県） ・ 特定非営利活動法人 地球の緑を育てる会（茨城県） ・ 秩父育樹会（埼玉県） ・ 特定非営利活動法人 四街道メダカの会（千葉県） ・ 東京藝術大学 キャンパスランドデザイン推進室（東京都） ・ 特定非営利活動法人 国際ふるさと森づくり協会（東京都） ・ 猿倉緑の森の会（新潟県） ・ 特定非営利活動法人 戸隠森林植物園ボランティアの会（長野県） ・ NPO法人 伊豆未来塾（静岡県） ・ NEW福岡グリーンヘルパーの会（福岡県） ・ 特定非営利活動法人 霧島ふるさと命の森をつくる会（鹿児島県）
<p>里地・里山・ 里海の 保全・河川の 浄化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学国際保健ボランティア（愛知県、福島県、バングラデシュ、インドネシア） ・ 公益財団法人 地球環境戦略研究機関 国際生態学センター（ラオス） ・ 特定非営利活動法人 草の根国際協力研修プログラム（タイ） ・ 伊豆沼・内沼ドジョウ・ナマズ研究会（宮城県） ・ 青年海外協力隊茨城県OV会（茨城県） ・ 特定非営利活動法人 麗潤館（茨城県） ・ 森林塾青水（群馬県） ・ 特定非営利活動法人 手賀沼トラスト（千葉県） ・ あびこ谷津学校友の会（千葉県） ・ NPO太東埼燈台クラブ（千葉県） ・ 特定非営利活動法人 草炭緑化協会（千葉県） ・ 特定非営利活動法人 ちば環境情報センター（千葉県） ・ 特定非営利活動法人 しろい環境塾（千葉県） ・ NPO成田さくらの里（千葉県） ・ 境川クリーンアップ作戦実行委員会（東京都） ・ 特定非営利活動法人 山崎・谷戸の会（神奈川県） ・ 特定非営利活動法人 グリーン成長 桜（神奈川県） ・ NPO法人 海の森・山の森事務局（神奈川県） ・ 横浜自然観察の森友の会（神奈川県） ・ 玉縄城址まちづくり会議（神奈川県） ・ 特定非営利活動法人 溪流再生フォーラム（新潟県） ・ 特定非営利活動法人 自然とオオムラサキに親しむ会（山梨県） ・ 特定非営利活動法人 ぎふし森守クラブ（岐阜県） ・ 「あいちの海」グリーンマップ（愛知県） ・ 特定非営利活動法人 四日市ウミガメ保存会（三重県、愛知県、岐阜県） ・ 鯨城・堀川と生活を考える会（愛知県） ・ ホタルこいこいプロジェクト（愛知県） ・ 巨木と水源の郷をまもる会（滋賀県）

<p>里地・里山・ 里海の 保全・河川の 浄化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特定非営利活動法人 瀬田川リバプレ隊（滋賀県） ・NPO法人 愛のまちエコ倶楽部 里守隊（滋賀県） ・特定非営利活動法人 森林ボランティア竹取物語の会（大阪府） ・特定非営利活動法人 泉南の里山を大切に作る会（大阪府） ・楽農クラブ（大阪府） ・行常しあわせの森づくり協議会（兵庫県） ・よこおみち森もりの会（兵庫県） ・高砂海浜公園海辺の保全集いの会（兵庫県） ・特定非営利活動法人 豊かな森川海を育てる会（兵庫県） ・特定非営利活動法人 うだ夢創の里（奈良県） ・豊島棚田くらぶ（香川県） ・特定非営利活動法人 アーキペラゴ（香川県） ・和白干潟を守る会（福岡県） ・ふるさと・夢つむぎネットワーク（佐賀県） ・国見縄文の森実行委員会（佐賀県） ・特定非営利活動法人 長崎海洋環境研究会（長崎県） ・南九犬猿会（鹿児島県） ・西表在来植物の植栽で地域振興を進める会（沖縄県）
<p>環境教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特定非営利活動法人 北九州ビオトープネットワーク研究会（インドネシア） ・特定非営利活動法人 パルシック（マレーシア） ・特定非営利活動法人 タンチョウ保護研究グループ（北海道） ・特定非営利活動法人 アースデイ・エブリデイ（東京都） ・特定非営利活動法人 森づくりフォーラム（神奈川県） ・NPO法人 S o E L a（神奈川県） ・特定非営利活動法人 山の遊び舎はらぺこ（長野県） ・特定非営利活動法人 ラブ・ネイチャーズ（静岡県） ・環境学習サークルみえ（三重県） ・だいらっこの森整備推進チーム（滋賀県） ・eーみらっそ環境教育プロジェクト（兵庫県） ・奈良・人と自然の会（奈良県） ・エコ村伝承館（熊本県）
<p>野生生物・ 絶滅危惧 生物の保護</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コーディリエラ・グリーン・ネットワーク（フィリピン） ・特定非営利活動法人 サラマンドフの会（ケニア） ・公益財団法人 日本鳥類保護連盟（リトアニア） ・大雪山マルハナバチ市民ネットワーク（北海道） ・特定非営利活動法人 日本ツキノワグマ研究所（秋田県、福島県） ・坂月川愛好会（千葉県） ・特定非営利活動法人 富士山自然保護センター（山梨県） ・特定非営利活動法人 サンクチュアリエヌピーオー（静岡県） ・特定非営利活動法人 海プラスS O U（静岡県） ・愛知守山自然の会（愛知県、岐阜県、三重県） ・東お多福山草原保全・再生研究会（兵庫県） ・里山の山野草を守る会（奈良県） ・広島大学カブトガニ研究会（広島県、福岡県） ・NPO法人 ふくおか湿地保全研究会（福岡県、大分県）

以上

ご参考

【公益財団法人イオン環境財団について】

当財団は「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」というイオンの基本理念のもと、1990年に設立。以来、環境活動に取り組む団体への助成・支援、世界各地における植樹活動、生物多様性の保全などに貢献した団体・個人への顕彰、環境人材育成のための環境教育を主な事業として、さまざまな環境・社会貢献活動に継続し取り組んでいます。

《公益財団法人イオン環境財団ホームページ：<http://www.aeon.info/ef/>》

■助成事業

【環境活動助成先団体の活動の一例】



干潟のヨシ原の再生植樹

団体名：草炭緑化協会 活動地：千葉県



薪炭林の整備

団体名：森林塾青水 活動地：群馬県

■植樹事業

各国政府や地方自治体と協力し、自然災害などで荒廃した森の再生を目的としてアジアを中心とした世界各地で植樹を行っています。2018年度は、国内では福島県南相馬市、三重県松阪市、宮城県亘理町、宮崎県綾町、大分県竹田市、千葉県千葉市、沖縄県宜野湾市にて、海外では中国・北京市、ミャンマー・ヤンゴン、インドネシア・ジャカルタにおいて植樹活動を実施しました。



第1回 三重県松阪市植樹



第2期 インドネシア・ジャカルタ植樹（第1回）

■連携事業

[生物多様性アワード]

生物多様性の保全と持続可能な利用の推進を目的として、「生物多様性みどり賞（国際賞）」と「生物多様性日本アワード（国内賞）」の2つのアワードを創設。隔年で開催し、顕著な環境保全活動が認められる個人・団体を顕彰しています。2017年度は、第5回「生物多様性日本アワード（国内賞）」、2018年度は第5回「生物多様性みどり賞（国際賞）」を実施しました。



第5回「生物多様性みどり賞」授賞式

[日本ユネスコエコパークネットワークとの連携協定]

2017年に当財団は、日本ユネスコエコパークネットワーク（会長 前田穰 宮崎県東諸県郡綾町長）と“生態系の保全”と“持続可能な利活用”の調和を目指し、日本国内のユネスコエコパーク※（生物圏保存地域）における3つの機能（保全機能、経済と社会の発展、学術的研究支援）に関し、国内初となる連携協定を締結しました。「生態系の保護・保全のみならず自然と人間社会の共生に重点を置く」というユネスコエコパークの理念に当財団が賛同し、日本国内の管理運営機関である日本ユネスコエコパークネットワークとの連携のもと、ユネスコエコパークのさらなる発展に向けて取り組んでいます。

※生物圏保存地域（Biosphere Reserves：BR）により親しみをもってもらうため、2010年1月、日本国内ではBRをユネスコエコパークと呼ぶことが日本ユネスコ国内委員会にて正式に決定されました。

■環境教育事業

[アジア学生交流環境フォーラム]

グローバルなステージで活躍する環境分野の人材 育成を目的として、アジア各国の大学生が集い、各国の自然環境や価値観の違いを学びながら地球環境について国境を越えて討議をする、「アジア学生交流環境フォーラム（ASEP）」を実施しています。2018年度は、「熱帯雨林からの贈りもの」をテーマに、王立プノンペン大学（カンボジア）、清華大学（中国）、インドネシア大学（インドネシア）、早稲田大学（日本）、高麗大学校（韓国）、マラヤ大学（マレーシア）、ベトナム国家大学ハノイ校（ベトナム）、チェラロンコン大学（タイ）、ヤンゴン経済大学（ミャンマー）の9ヶ国合計72名の学生が参加し、8月2日～5日の期間、マレーシアクアラルンプールで開催しました。



第7回ASEP開講式（マラヤ大学内）

[イオン環境セミナー]

国際的な視野で生物多様性の価値を問い直し、新たな価値共有のできる教育を行うことを目的とするプログラムを実施しています。2016年に開始し、2018年は9月22日（土）から2日間、インドネシア大学で開催しました。



イオン環境セミナー
「第3回生物多様性を越えて」
（インドネシア大学）